



DAS-JAPAN NEWS

第2号：2010年10月4日

1. 他の審査機関からの移行が活発化！

このところ他の審査機関から DAS-ジャパンへの移行が活発化しています。特に財団法人系の審査機関からの移行が多いようです。移行されてきた組織様にお聞きしたところ、その理由は次のようでした。

- (1) 審査費用が高い
- (2) 審査が形式的でシステムの向上に役立たない
- (3) こちらの要望を真剣に聞き入れてもらえず、対応が横柄で腹が立った

弊機関は上記のような不満はまったく感じられず、移ってよかったという率直な感想をいただいております。ちなみに、現在弊機関にご登録いただいている約60%の組織様が、他機関から移行されてきています。

2. DAS 認証機関の世界ミーティングがイタリアで開催！

世界の拠点数を世界40か国に拡大している DAS-UK (英国本部) ですが、全世界の意思統一と良好なコミュニケーションを図るために、数年単位で世界の拠点を一堂に会してミーティングを行っています。今年は、最近認証件数を飛躍的に伸ばしているイタリアの拠点が中心となり、本年10月にミラノで開催されます。DAS ジャパンは、代表の萩原が参加いたします。

3. 単なるお墨付きの時代は終わった！

ISOが我が国に本格的に導入されてすでに17年が経過しました。その間この認証取得が、公共工事の入札条件や請負業者の評価基準などに活用され一定の評価を得てきましたが、近年ISOに対する見方がだいぶ変わってきています。ひとつはISOがすでに日本の多くの組織に導入され、認証そのものの価値が薄れてきたこと。もうひとつは、このISOをいかに自組織に生かしているかが問われ始めてきたということです。つまりISOのお墨付きだけでは他社との差別化にはならず、このシステムを経営効率や社員の力量アップにどのようにつなげているかで差別化を実現する時代になってきました。

4. プライバシーマークとISMSとの違い！

ひところ世間の注目を浴びたプライバシーマーク（個人情報保護）の認証返上が昨今増えてきました。一時期は申請組織数に審査が追い付かず、半年～1年待ちという状況もありましたが、今では嘘のようにひっそりとしています。プライバシーマークという規格は、もともと我が国の法律である「個人情報保護法」をベースに構築されています。そのせいか、規格そのものの言い回しは法律そのものとほとんど変わりはなく、きわめてわかりにくい内容です。一方、情報セキュリティの国際規格としてISMS（ISO27000）が発行され、世界に広まっています。プライバシーマークとこのISMSとの違いは、前者が個人情報の保護を目的としているのに対して、後者は個人情報を含めた組織全体の情報やノウハウの保護を目的としています。またプライバシーマークは、国内のみ通用する規格であるのに対して、ISMSは品質や環境と同様に世界で通用するISO国際規格の位置づけです。



DASジャパンから

どうして日本人はグローバル人材になれないか？

先日都内で開催された「日本人はグローバル人材になれないわけ？」というセミナーに参加してきました。講師の説明で驚いたことは、日本人の母音は世界で一番少なく、エスキモー人について世界で最低レベルだそうです。それに比べ英語の母音の数は多く、また国や地域によっても千差万別で、それだけでも日本人はハンディがあるとのこと。そして苦手な一番の要因は、日本人の「恥の文化」が一番影響しているとのこと。英会話は多少稚拙でも、身振り手振りを交え大きな声で発音すれば、相手にはこちらの考えは伝わるそうです。「ブッシュ語録」という言葉があり、米国のブッシュ大統領の演説は、よく聞いてみると数えられないほどミスがあるそうです。

ISO9001:2008 規格解釈「5.4.2 品質マネジメントシステムの計画」

本要求事項もわかりにくいもののひとつです。品質マネジメントシステムはすでに構築済みなのに、なぜまたシステムを計画しなければならないのか、理解に苦しむところです。実はすでに構築した品質マネジメントシステムは不変でよいはずはありません。顧客が変わればその手順は見直す必要があるかもしれませんし、場合によっては今までのシステムでは通用しないことも考えられます。ISO9001は100社の顧客には100のシステムがあってもよいとの考えが底流にあります。特に昨今の顧客は、要望が多様化・個人化していますから、それに見合った製品やサービスを提供しないと顧客満足を達成できない時代になりつつあります。定期審査でシステムの変更がここ数年まったくなされていない組織に出会いますが、再度この要求事項の意図を理解して欲しいものです。

審査メモの重要性！

弊認証機関は英国本部から、「審査メモ」をしっかりと記録するよう指示されています。数人の審査チームであれば、審査メモは手分けして記録することができますが、「一人審査」の場合には、卓越したメモ力が要求されます。メモする場合の要点は、審査中にキーワードを素早く認識し、確実にそれらを記録して行く癖をつけることです。しかも記録しながら次の質問を考え、審査が途切れることなく継続できる審査員の力量が必要とされます。これができるためには、当該組織の強みや弱みをあらかじめ調査しておき、そこを重点としての「審査ストーリー」を頭にインプットしておくことです。参考に英国本部から審査メモを入手したところ、1審査あたり20ページを超えていました。

(編集責任者 萩原由利)



ISO 認証機関 DASジャパン株式会社
東京都豊島区東池袋 4-27-5 LP池袋9
代表取締役 萩原陸幸
Tel 03-6666-0501 Fax 03-6666-0594